

## 血漿分画製剤の製造体制について (目次)

- ・ 血漿分画製剤の需給見通し . . . . . 1
- ・ 血漿分画製剤の自給率の推移 . . . . . 2
- ・ 主な血漿分画製剤の自給率の推移(供給量ベース) . . . . . 3
- ・ 主な血漿分画製剤の供給量と自給率 . . . . . 4
  - 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ製剤
  - 免疫グロブリン製剤
  - 組織接着剤
  - 血液凝固第Ⅷ因子製剤(遺伝子組換え型含む)
  - アルブミン製剤
  - 抗HBs人免疫グロブリン製剤
- ・ 原料血漿価格(日米)の推移 . . . . . 10
- ・ 代表的な血漿分画製剤の薬価の推移 . . . . . 11
  - 免疫グロブリン製剤
  - 血液凝固第Ⅷ因子製剤(遺伝子組換え型含む)
  - アルブミン製剤
- ・ 血漿分画製剤の分類表 . . . . . 14

# 血漿分画製剤の需給見通し

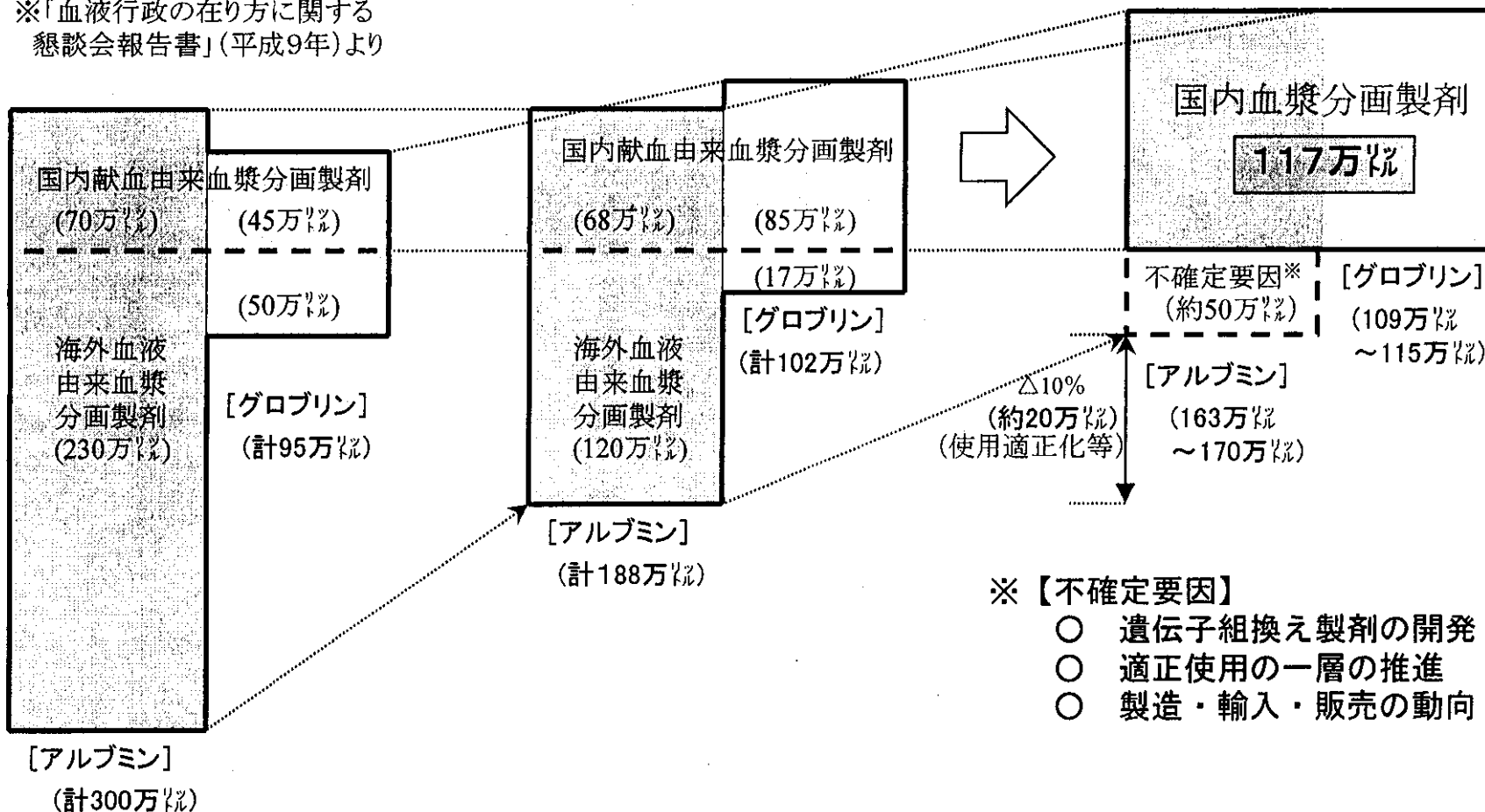
(「血液製剤の安全性及び安定供給の確保に関する基本方針」(平成15年)における推計)

【平成8年:使用量】

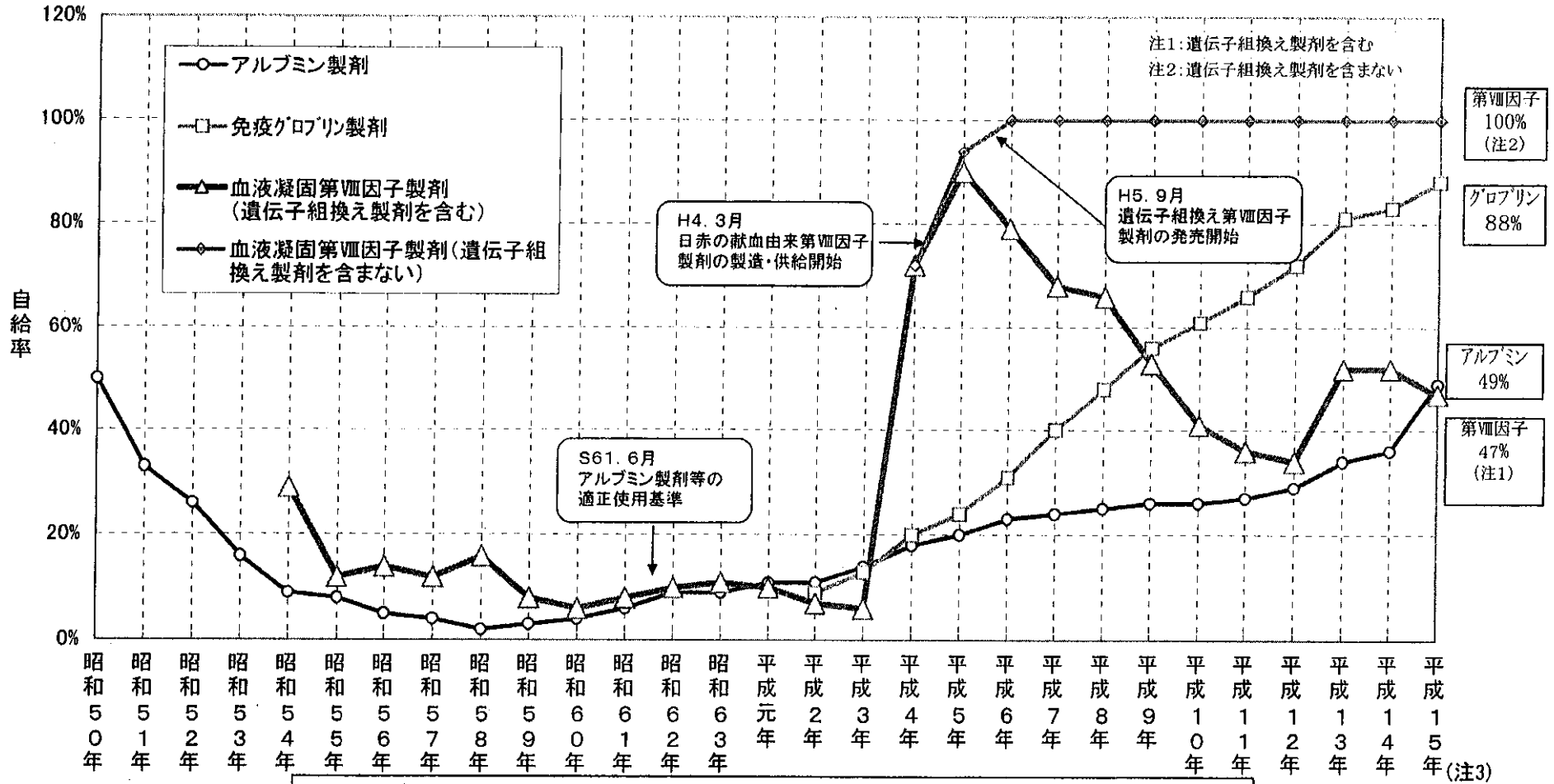
【平成14年:使用量】

【平成20年:使用量】

※「血液行政の在り方に関する  
懇談会報告書」(平成9年)より



## 血漿分画製剤の自給率の推移

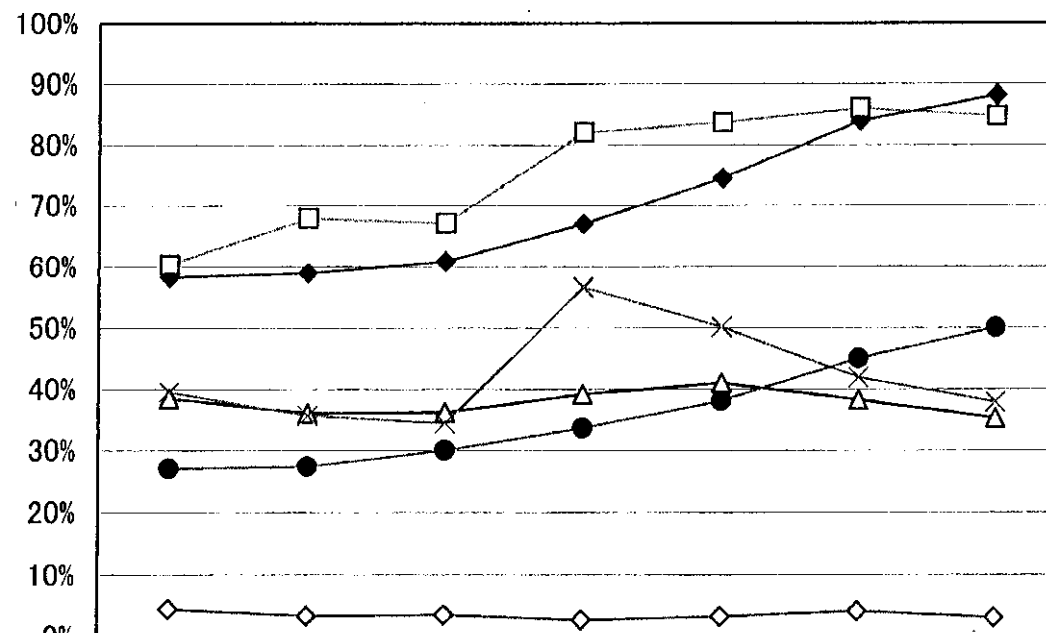


**血液凝固第Ⅷ因子製剤の自給率について**

- ・血液由来の製剤については、平成6年に自給率100%を達成。《倫理性等の観点》
- ・遺伝子組換え製剤を含めると、自給率は49%。《安定供給の観点》

平成15年は4月～12月の集計である。

### 主な血漿分画製剤の自給率の推移 (供給量ベース)



	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度 (見込)	H16年度 (見込)
◆ 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	58.28%	58.97%	60.86%	67.02%	74.48%	84.01%	88.23%
□ 人免疫グロブリン	60.37%	67.89%	67.14%	82.13%	83.76%	86.07%	84.83%
△ 組織接着剤	38.47%	36.06%	36.18%	39.16%	41.05%	38.25%	35.25%
× 血液凝固第VIII因子(遺伝子組換え型含む)	39.52%	35.67%	34.41%	56.67%	50.18%	41.99%	37.88%
● アルブミン	27.07%	27.43%	30.09%	33.63%	38.06%	45.12%	50.11%
◇ 抗HBs人免疫グロブリン	4.57%	3.46%	3.59%	2.76%	3.35%	4.23%	3.18%

自給率100%のもの

乾燥人フィブリゲン、血液凝固第VIII因子(血液由来に限る)、乾燥濃縮人血液凝固第IX因子(複合体含む)、トロンピン、乾燥濃縮人活性化プロテインC

自給率0%のもの

インヒビター製剤、乾燥濃縮血液凝固第XIII因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、人ハプトグロビン、乾燥濃縮人CI-インアクチベーター